



新任ALIT着任

7月31日に新たな外国語指導助手（ALIT）としてフィニックス・テイラー・ジェイドさんが着任しました。

テイラーさんは、アメリカニューヨーク州出身の23歳で、大学でアジアについて学んだことなどをきっかけに日本に興味を持ち、ALITとして来日しました。

テイラーさんは「言語だけでなくどまらず、両国の生活習慣や食べ物の違いなどに関心がある。生徒にそれぞれその国の文化を理解してもらえようという授業をしたい」と話します。



↑教壇に立つテイラーさん

みんなであらう
考えよう
人権・同和問題
No.267

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係(☎23-3186) 王様は裸だよ

アンデルセン童話の『裸の王様』を知っていますか。こんな話です。

着飾ることが大好きな王様のもとに、二人の機織り職人がやってきます。二人は愚か者には見えない特別な糸で布を織り、それはそれは美しい服を仕立てるといいます。仕立てあがった服を着た王様は、従者を連れて盛大なパレードを行うのですが、実は王様は裸なのです。でも、王様も従者も街の人たちも、自分が愚か者だと周りの人たちに思われたくないので、服が見えているように振る舞って、口々に王様の服を誉めます。そんな大人たちの様子を見て、一人の子どもが「王様は裸だよ」と言いました。見えたままの真実を教えてください。たの子どもだったというお話です。

一見当たり前に思えることでも、素直な『子どもの目線』で見つめてみると、子どもに説明できないおかしなことがたくさんあることがわかります。例えば『女人禁制』や『六曜』、住所で人の値うちを差をつける『部落差別』…。きっと、多くの人はおかしいと思っているはずなのに「昔から言われているから」という周りの意見に同調してしまう傾向にあるようです。空気を讀んだり、忖度することが日本人の美学なのかもしれませんが、日本人の美しさや思いやりの一つの形なのかもしれません。しかし、優しさや思いやりだけではおかしなことは無くせません。「王様は裸だよ」と教えてあげることでもきかないのです。

おかしなことが気になったら、童心に帰って身近な絵本を讀んでみませんか。あの頃の『子どもの目線』を思い出すヒントが、たくさん詰まっていますはず。

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係(☎22-1262)

史跡大川内鍋島窯跡調査事業

↳日峯社下窯跡の調査成果⑦

日峯社下窯跡の物原(失敗品の廃棄場所)から出土した初期の鍋島焼の破片と同じ伝世品があります。伝世品とは作られた時代から受け継がれて、現在もそのまま残っているものことです。江戸時代の焼き物にも伝世品として残っているものがあります。

同じ文様の伝世品は、ほぼ日峯社下窯で焼成されていたと考えられます。「写真①」の破片は、意図的に小さく割られて捨てられているため、破片からは、どのような皿だったのか、まったくわかりません。しかし、破片の模様から「写真②」の皿の地模様の一部であることが分かります。

伝世品だけでは、その製品がどこで焼かれたのかはつきりとしませんが、窯跡を調査して同じ文様の破片が出土すると、その窯跡で焼かれた可能性が高くなります。特に初期の鍋島焼は特徴があるので日峯社下窯跡から出土した陶片と



【写真①】日峯社下窯跡から出土した遺物



【写真②】色絵唐花七宝文皿